

**楽器のある風景 ③****～スペイン～****洞窟のフラメンコ**

スペインと聞いて真っ先に連想されるものの一つフラメンコ。日本ではフラメンコ＝スペイン舞踊と思われていますが、本当は魂を揺さぶるような激しいバイレ(踊り)、一途な愛や悲哀を絞り出すように切々と歌うカンテ(歌)、そして目にも止まらぬ早さでそれらを支えるギター伴奏(トケ)の3つがそろって始めて成り立つ複合芸術なのです。また、フラメンコ＝スペイン発祥の芸術ではありません。では、この情熱的で素晴らしい芸術はいったいどこから生まれたのでしょうか。

スペイン南部アンダルシア地方のグラナダはアルハンブラ宮殿で有名な街です。グラナダはヨーロッパ大陸でありながら711年から1491年までイスラム教徒の支配下におかれていました。しかし1492年にカトリックの国土回復運動と呼ばれる戦争により十字架が高々と掲げられました。アルハンブラ宮殿はイスラム最後の砦であり、キリスト教とイスラム教の激しい攻防の歴史を今に伝える墓標なのです。

そんなアルハンブラ宮殿のふもととサクロモンテに

は洞窟を居酒屋に仕立てたタブラオが数件あります。ここではヒターノ(スペイン語でジプシーの意)と呼ばれる流浪の民がフラメンコを演じています。ヒターノはアルハンブラがカトリックに落ちた頃インドあたりから流れ着いた人々だといわれています。ヒターノは現在スペイン全土に40～50万人おり、その大半がアンダルシア地方に住んでいます。そしてこのヒターノが自分たちの踊りとアンダルシアの音楽を融合させたものがフラメンコなのです。そのためフラメンコのリズムや節回しはどことなくアジア的で我々日本人にも馴染みやすいのです。現在一般的に見られるフラメンコは、ヒターノのフラメンコをスペイン人が真似て発展させたもので、この洞窟のタブラオで見られるのが本当のフラメンコなのです。非常に狭い洞窟の中で、手が届くくらいの距離で見る本当のフラメンコは、激しいバイレ、「オーレッ!!」という情熱的なカンテ、超絶技巧で美しい音色を奏でるトケに圧倒され、見るものを陶醉させてしまう不思議な魅力があります。(T.S)

企画展『ジャワ・ガムラン』終わる

会期：平成13年10月2日(火)～11月18日(日)

10月2日(火)より、企画展「ジャワ・ガムラン」を開催しました。インドネシアに古くから伝わる、金色に輝く青銅製の打楽器ガムラン。今年6月より、楽器博物館入口にその一部を展示しましたが、今回の企画展では当館所蔵の中部ジャワ島のガムランのフルセットとともに、インドネシアの写真などを展示し、インドネシアの文化を紹介しました。

インドネシアは大小13,000以上もの島々からなる国です。その中に300以上もの民族が集まり、250以上の言語が使われています。また古くから交通の要所として、外から様々な文化が入り込み、それらが長い歴史の中で混合され、独特の文化が育ちました。それは音楽にも反映され、地域や民族によって独特の音楽様式が形作られました。

中でもガムランは、その楽器構成・音楽から同じインドネシアの中でもジャワ様式・スンダ様式・バリ様



企画展「ジャワ・ガムラン」展示室風景



影絵芝居(ワヤン)の人形と映像に見入る子供

式の、大きく3種類に分類することができます。ジャワ島のガムランはほかのものより規模が大きく、フルセットにして約30種類もの楽器が揃います。直径1mほどもある“ゴング”をはじめ、シロフォン似に似た“グンデル”、両面太鼓“クンダン”などの打楽器に加えて管楽器や弦楽器も演奏に加わります。

今回の企画展ではそのジャワ・ガムランの魅力の皆様にお届けしました。会場には会期中14,071人の方々が訪れ、皆ガムランの壮大さに驚きを隠せない様子でした。また、展示に加え、インドネシアの伝統芸である影絵芝居「ワヤン」の人形を展示し、“ワヤン”や“ゴングの作り方”の映像をビデオで放映しました。お客様の中には、その前で足を止め、しばし見入っている方もいらっしゃいました。

『ジャワ・ガムランに挑戦しよう』開催しました

9月8日(土)・9日(日)、そして9月22日(土)・23日(日)と、2回に分けて2日ずつ、それぞれ10:00から15:00まで、講師に風間純子先生(中京女子大学人文学部アジア文化学科助教授)をお招きし、当館所蔵のジャワ・ガムランを使用した、体験ワークショップを開催しました。

ガムランの音階は1オクターブに5つの音がある5音階でできており、沖縄音階に似た「ペロッグ音階」と、日本の民謡音階に似た「スレンドロ音階」の2種類に分かれます。それぞれの音階に調律された楽器が用意され、曲に応じて使い分けられます。今回のワークショップでは、1日目にペロッグ音階の楽器



ボナンの練習

を使った「マニャル・セウ」という曲を、2日目にスレンドロ音階の楽器を使った「リチリチ」という曲を練習しました。

受講者の中には、現地でガムランを聞いたことがあるという方や、インドネシアには行ったことがないという方もいらっしゃいましたが、皆様深く興味を持って熱心に受講され、先生の優しい指導のもと、めきめきと上達していきました。また、一人一つの楽器のみの体験ではなく、ガムランの様々な楽器を交代で演奏し、自分に合った楽器を探していました。

10月14日(日)には、今回の経験を生かし、企画展「ジャワ・ガムラン」に連動して、ミュージアムサロンを開催し、受講者の方々やボランティアの方々によるガムランの演奏会を行いました。少し日数が経っていたので、最初は忘れてとまどい気味でしたが、曲を進めるにつれてみんなの調子が合い、曲としてのまとまりができました。

今回のワークショップはまだ初級編とも言うべき簡単なものでしたが、当館では来年度以降も、またガムランを使用したワークショップを開催していく予定です。

第38回レクチャーコンサート

『ジャワ・ガムラン～壮大な音の宇宙～』 神秘的なガムランの演奏に酔いしれました

本年度4回目のレクチャーコンサート「ジャワ・ガムラン～壮大な音の宇宙～」を10月21日（日）2：00PMより開催しました。国内でも有数のガムラン演奏グループ「ランバンサリ」の演奏で、まさに壮大なガムランの音の世界をお送りしました。

企画展「ジャワ・ガムラン」開催中のガムランのコンサートとあってか、お客様の興味は強く、222人の方々がご来場されました。

プログラムは“マジュモ（Gd.Majemuk）”という、演奏会のオープニングとしてよく使用される曲から始まりました。曲名は知られていなくても、青銅製打楽器の力強く、輝かしい音色を堪能できる曲でした。

ガムランには“ペロッグ”と“スレンドロ”という二つの音階があります。楽器ごとにそれぞれの音階が



優美な踊りとガムランの演奏

用意されるため、大編成の楽器群になってしまっているのですが、この二つの音階が同時に使用されることはありません。今回演奏された“パンコル(Ldr.Pangkur)”という曲は、この二つの音階が交差する“モラ・マレ（molak-malik）”という手法で演奏され、各々の音階の持つ雰囲気や堪能することができました。また、特別にお客様に簡単な曲を演奏していただく体験コーナーを設け、希望されたお客様は演奏者の指導を受け、一生懸命に演奏していました。



ガムラン体験コーナー

プログラムの最後の曲は“ゴレ・スリ・ルジュキ（Golek Sri Rejeki）”。ゴレとは人形のことで、ジャワの古典舞踊の一つです。女性のたおやかな仕草を踊りに昇華させたもので、今回はジャワ古典舞踊グループ、サンガール・パムンカスを迎え、ガムランの伴奏に合わせて、その優美な踊りを披露しました。

今回使用された楽器だけでも約20種類。それに歌や踊りも交えて演奏されたガムランは、実に神秘的でエキゾチック。お客様もその壮大な音の世界に魅了された様子でした。

企画展講演会

「ジャワ文化の根源を探る～
『ブンガワン・ソロ』は何を語っているのか～」開催しました

10月27日（土）2：00PMより、講師に染谷臣道氏（静岡大学人文学部教授）をお招きして、企画展講演会「ジャワ文化の根源を探る～『ブンガワン・ソロ』は何を語っているのか～」を開催しました。

日本人になじみの深い歌『ブンガワン・ソロ』。表面上はブンガワン・ソロという名の川を歌った曲なのですが、その裏に隠された作詞者の意図を探ることで、ジャワ島の人々の、日本人にも似た「察し」の文化、そして「見えないものの向こうに見えないものを見る」精神について考えました。

講演会に参加した方の年齢層は幅広く、中には高齢の方で、戦時中ジャワ島にいた方などもいらっしゃって、講演会后、自分の体験談などを通して、今回の講演をどう聞いたか、そして、それによる質問の声があがるなど、参加者の方々もとても充実した時間を過ごすことができました。

新着資料展が開催されます！！

会期：平成14年1月19日（土）～2月11日（月）

本年に一般市民の皆様よりご寄贈いただきました貴重な資料をご紹介します。下記の方々にはここにご芳名を記し、改めて感謝申し上げます。

＜資料を寄贈いただいた方々＞（寄贈順・敬称略）

市川あき子（平塚市）	リードオルガン
清水 迪夫（浜松市）	オートハープ
浅野 仁（横浜市）	電気式リードオルガン他1点
飯山義太郎（東京都大田区）	アップライトピアノ
武田百合子（多摩市）	リードオルガン
草薙 靖平（東京都江戸川区）	チャルメラ
日本ピアノ卸売センター（浜松市）	アップライトピアノ他1点
市原 基宜（東京都江戸川区）	チャルメラ
田口 知子（浜松市）	リードオルガン
竹村 直人（浜松市）	リードオルガン
太田基一郎（浜北市）	LPレコード118枚、楽譜23冊
泉 チサエ（横浜市）	リードオルガン



ブランシェのチェンバロを弾くレオンハルト氏

巨匠レオンハルト氏来館

バロック音楽演奏の巨匠グスタフ・レオンハルト氏が12月11日(火)来館、熱心に見学されました。所蔵チェンバロを試奏され「大変よく整備されていてすばらしい」との感想を頂きました。

当館刊行物 国立国会図書館が推薦

「特別展オセアニアの楽器図録・祈りと踊りの楽器たち」と「フィールドワーク報告書Vol.3」が国立国会図書館月報11月号の本屋にない本のコーナーで推薦されました。館内ショップにて好評発売中です。

◆博物館日誌

- 10/2 企画展「ジャワ・ガムラン」
～11/18 地階展示室 観覧者：14,071人
10/7.8.14.21.28
展示室ガイドツアー
- 10/7 ミュージアムサロン「ギター・ミニコンサート」
出演：佐藤剛(当館職員) 参加者：114人
- 10/14 ミュージアムサロン
「ジャワ・ガムラン・ミニコンサート」
出演：当館職員, 当館ボランティア, 当館ガムラン
ワークショップ参加者 参加者：21人
- 10/15～19 移動博物館(浜松市立積志小学校)
- 10/21 レクチャーコンサート
「ジャワ・ガムラン～壮大な音の宇宙～」
14:00 研修交流センター21音楽セミナー室
出演：ランバンサリ 参加者：222人
- 10/21 ミュージアムサロン「管楽器ミニコンサート」
出演：トリオ・デュベリテ 参加者：48人
- 10/27 企画展講演会「ジャワ文化の根源を探る～『ブンガ
ワン・ソロ』は何を語っているのか～」
講師：染谷臣道(静岡大学教授) 参加者：44人
文化の日(無料開放日)
- 11/3 11/4.11.18.25
展示室ガイドツアー
- 11/11 ミュージアムサロン
「バロックヴァイオリン・ミニコンサート」
出演：小沢規子(ヴァイオリン演奏家), 小玉宏
(チェンバロ演奏家) 参加者：65人
- 11/17 講座「楽器の中の聖と俗」第2回
「ポルトガルのフォークダンス」
14:00 研修交流センター61研修交流室
講師：西岡信雄(大阪音楽大学学長) 参加者：44人
- 11/19～22 移動博物館(浜松市立葵西小学校)
- 12/23 ミュージアムサロン
「チェンバーオルガンのクリスマス」
出演：大平雅子(オルガン演奏家)

次回2/17(日) 2:00PM

第39回レクチャーコンサート

「トロンボーン～甦るルネサンスの響き～」

レクチャーコンサートも今回で39回目を迎えました。毎回楽しみにして下さる常連さんも生まれ、本当に39(サンキュー)です。

今回は、大阪サクソバット・アンサンブルの皆さんをお迎えし、ルネサンスの響きに耳を傾けてみようと思います。サクソバットとは、今から400～500年くらい前のトロンボーンです。現在のトロンボーンとはひと味異なる優しくまろやかな響き。ぜひご体験下さい。

◆これからの催し物

●展示室ガイドツアー

1/6.13.14.20.27 2/3.10.11.17.24
3/3.10.17.21.24.31

催し物により変更もあります 展示品の解説

●ミュージアムサロン

1/2「初春の調べ」出演：大谷康(尺八奏者)ほか
2/10, 3/3(内容未定)

時間は開催日により異なりますのでお問い合わせ下さい

●展示品の演奏デモンストレーション

毎日10:00～16:00 一時間毎

●講座「楽器の中の聖と俗」全3回

第3回「陸奥(みちのく)に舞うオニ・シカ・トラ」

1/19(土) 14:00 研修交流センター62研修交流室

講師：西岡信雄(大阪音楽大学学長)

●「新着資料展」

1/19(土)～2/11(月) 地階展示室

2001年に収集した楽器を披露します。

●浜松古楽フェスタ

2/16(土) アクトシティ浜松研修交流センター2階
市内内外の古楽愛好家が集う浜松古楽フェスタが行われま
す。当館ではこれに協力して毎正時ごとにヴィオラ・
ダ・ガンバ等のミュージアムサロン、もしくは鍵盤楽器
のデモンストレーションを行います。

●レクチャーコンサート

「トロンボーン～甦るルネサンスの響き～」

2/17(日) 14:00

研修交流センター21音楽セミナー室

出演：大阪サクソバット・アンサンブル

●特別展「アフリカの楽器」

3/26(火)～5/6(月)(予定) 地階展示室

タンザニアをはじめとしたアフリカの楽器と音楽文化を
紹介します。

◆9月～11月の観覧者数

	9月	10月	11月	3ヶ月の合計	開館からの累計
大人	3,830	6,081	5,768	15,679	450,253
中人	88	280	89	457	17,706
小人	541	1,710	1,525	3,776	102,345
幼児	226	258	369	853	26,537
計	4,685	8,329	7,751	20,765	596,841

利 用 案 内

開館時間：火曜日～日曜日 午前9:30～午後5:00
休館日：月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、年末年始、
館内整理日(1/30、2/27、3/27)
常設展観覧料： 個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)
大人(大学生以上) 400円 320円 240円
中人(高校生) 200円 160円 120円
小人(小・中学生) 100円 80円 60円
※館内には、手荷物の持ち込みはできません。

浜松市楽器博物館だより

平成14年1月2日発行

No.26

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1

T E L . 053-451-1128

F A X . 053-451-1129

URL: <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gakki/>

gaku@gakki.city.hamamatsu.shizuoka.jp

印刷 株式会社シバプリント